

貯目出腕録

子
1501



○唐韓幹善畫馬○王右丞王維字摩詰○李思訓大李將軍子李昭道小李將軍
 ○梁荆浩字浩然號洪谷子○關仝○宋董源字叔本又字北苑○釋巨然○米芾字元章
 襄陽人子友仁字元暉○元倪瓚字元鎮號雲林○黃公望字子久号一峰老人又号大痴
 ○王蒙字叔明号黄鹤山樵○明董其昌字玄宰号思白華亭人○郭熙○馬遠字遂父
 复珪字禹玉○劉松年○趙伯駒字千里○李唐字晞古○戴進字文進号靜菴又号玉
 泉山人○周臣字舜卿号東村
 ○唐吳道元字道子○董文敏其昌之謚○宋郭忠恕字恕先○謝赫○宋郭若虛名思郭熙子也
 ○宋李成戴熙○范寬名中正字仲立○元吳鎮字仲圭号梅華道人○明沈周啟南石田人
 ○明文徵明名壁字徵仲号衡山

千多4
 卷1501
 卷



同
 同
 同
 同





桃源仙舸



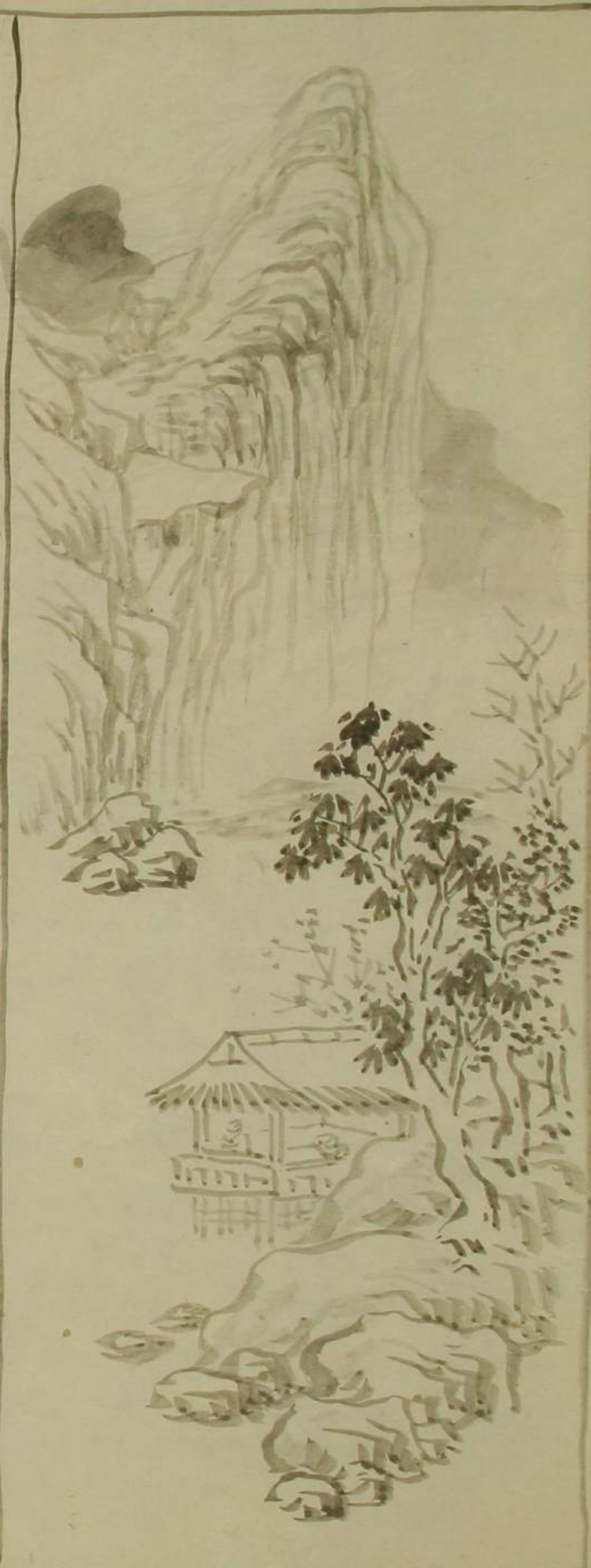
雪山旅思





曉秋
色亭





竹林
節舎



五折





晚寒
鴉林



暮天
人静









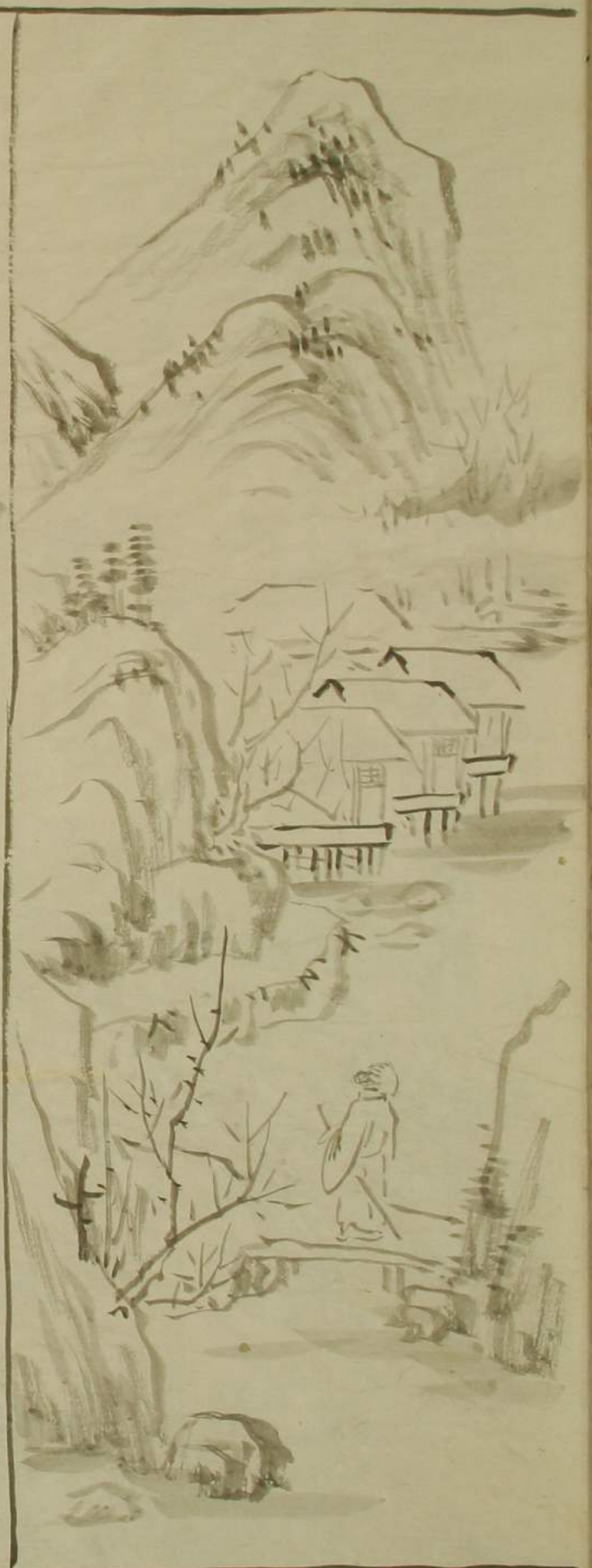




米襄
古
|

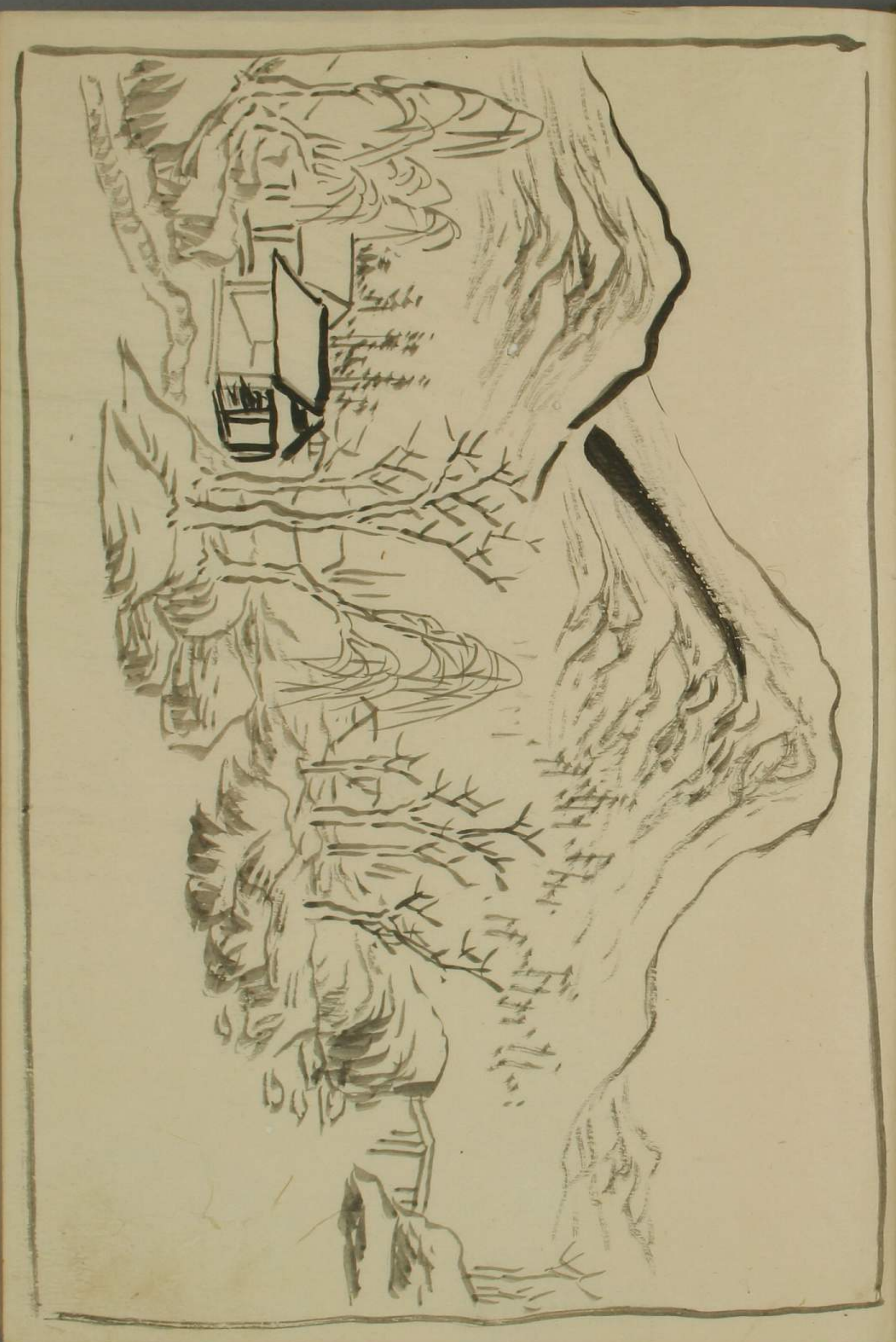


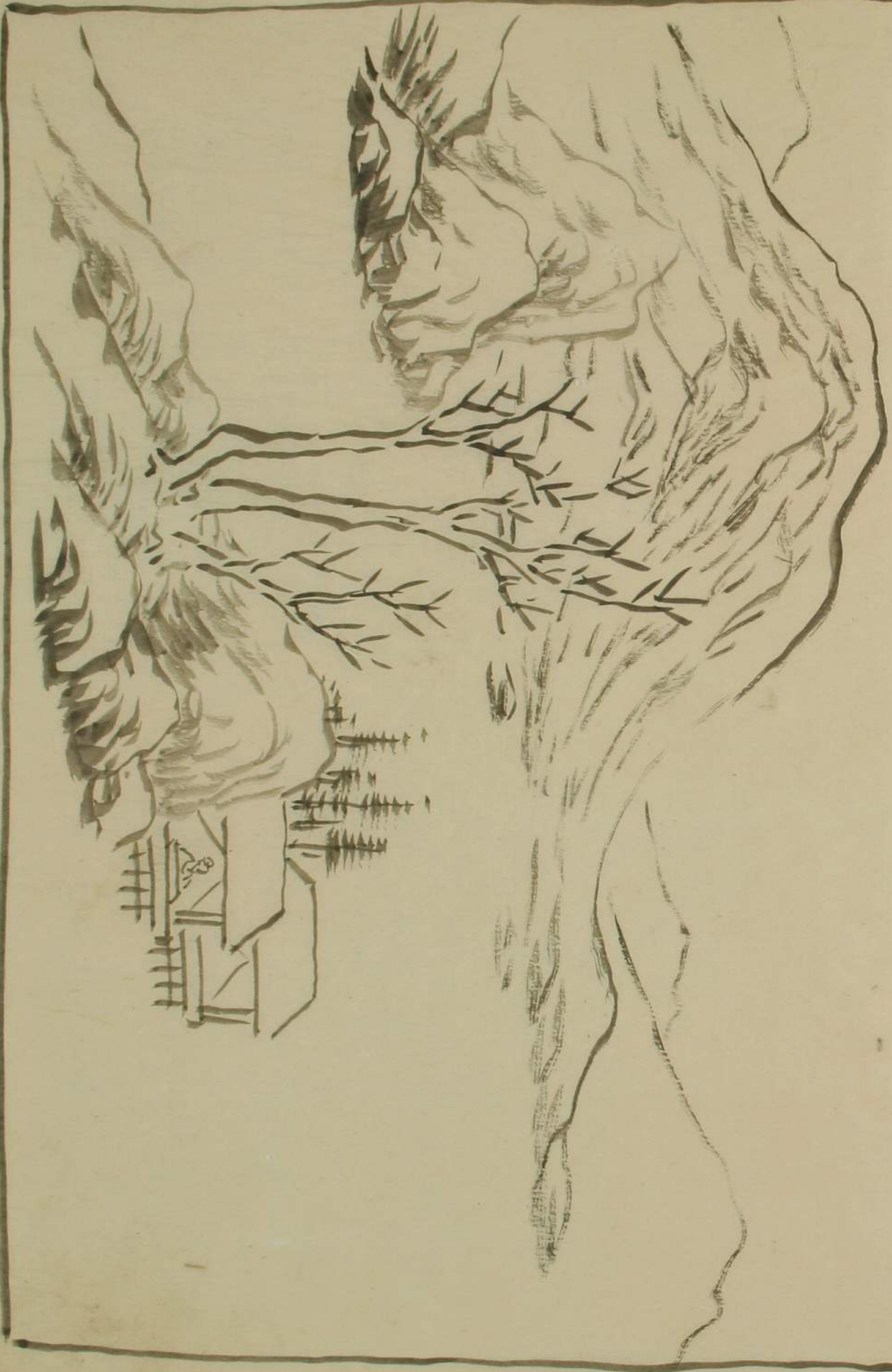




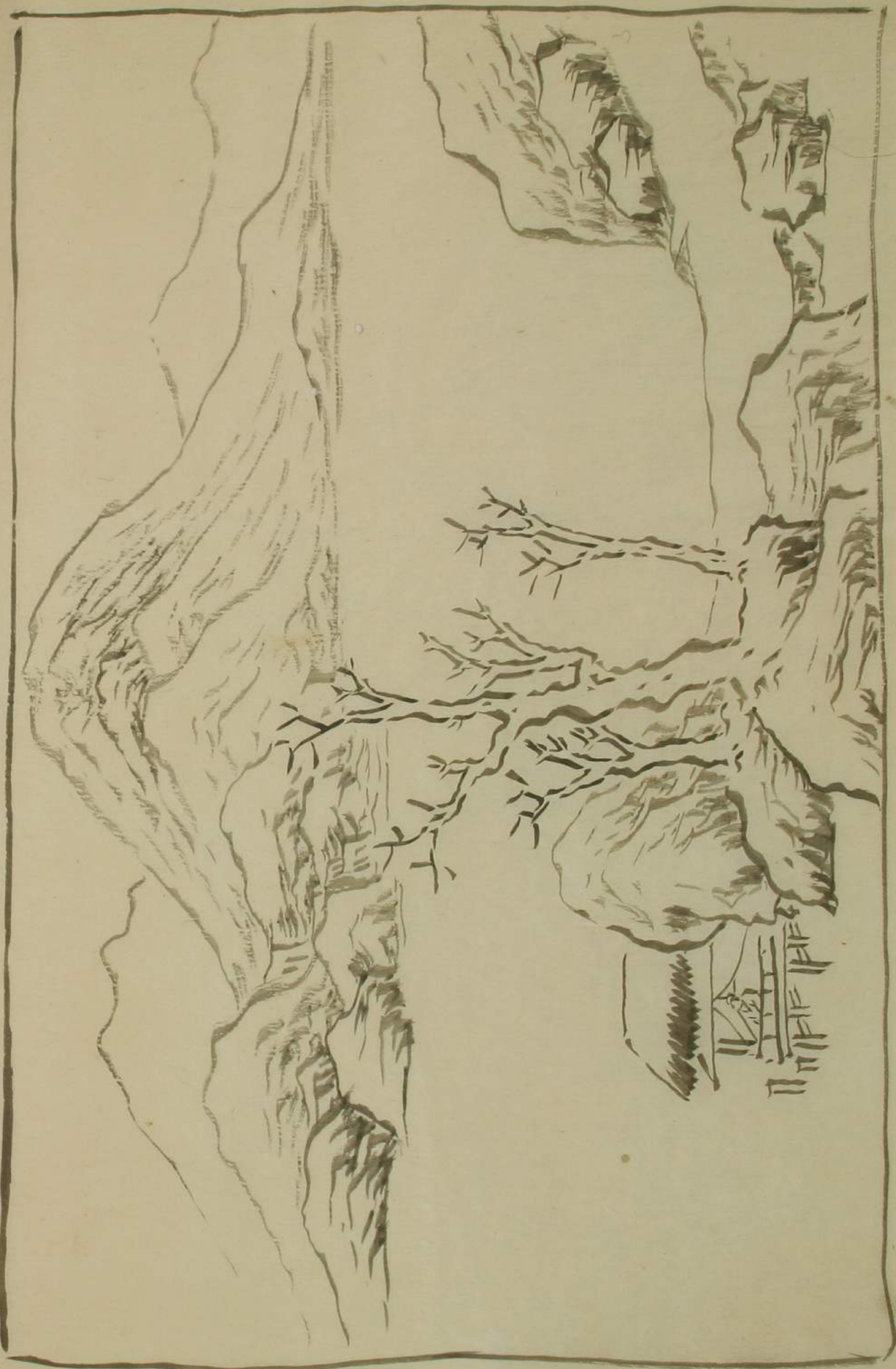
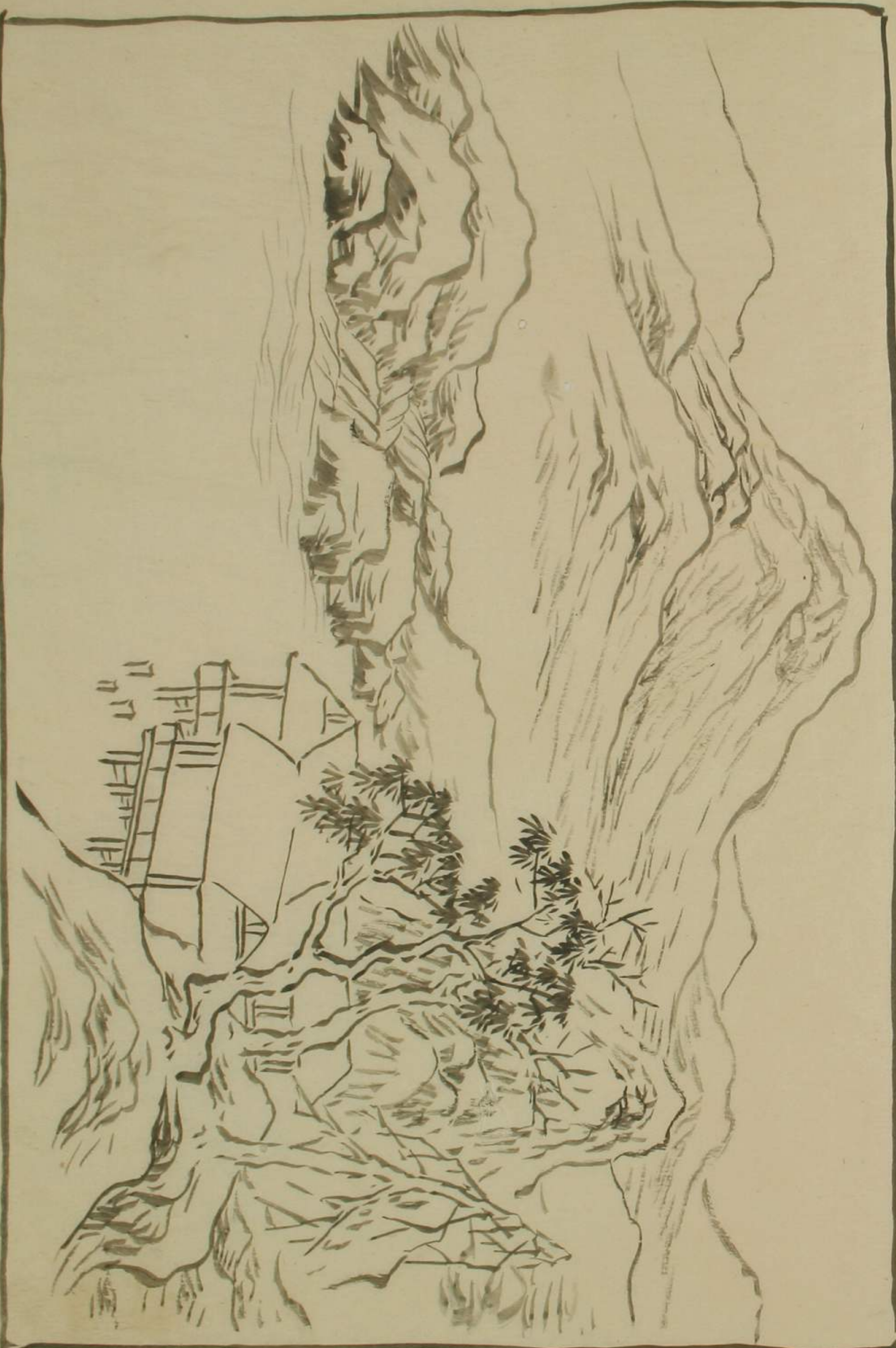




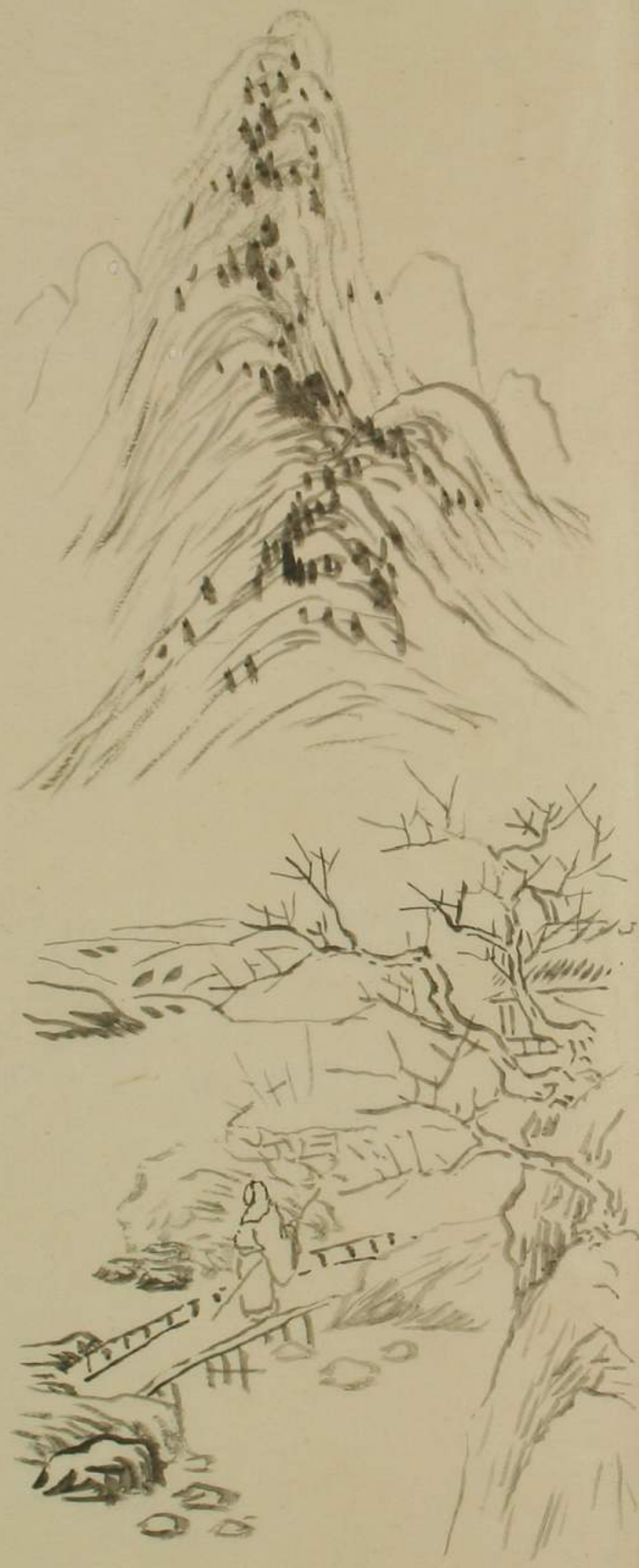


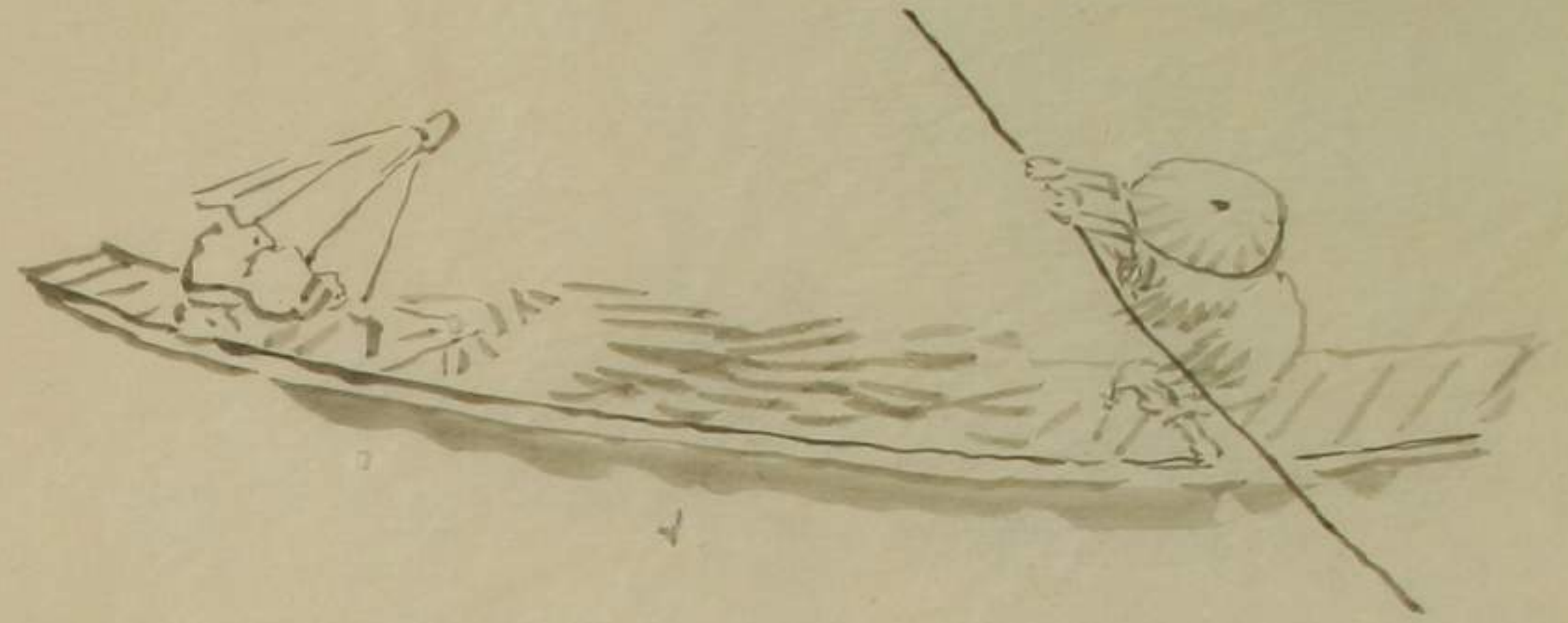












唐錢文句
 贈楓林
 好句題葉
 停舟搜



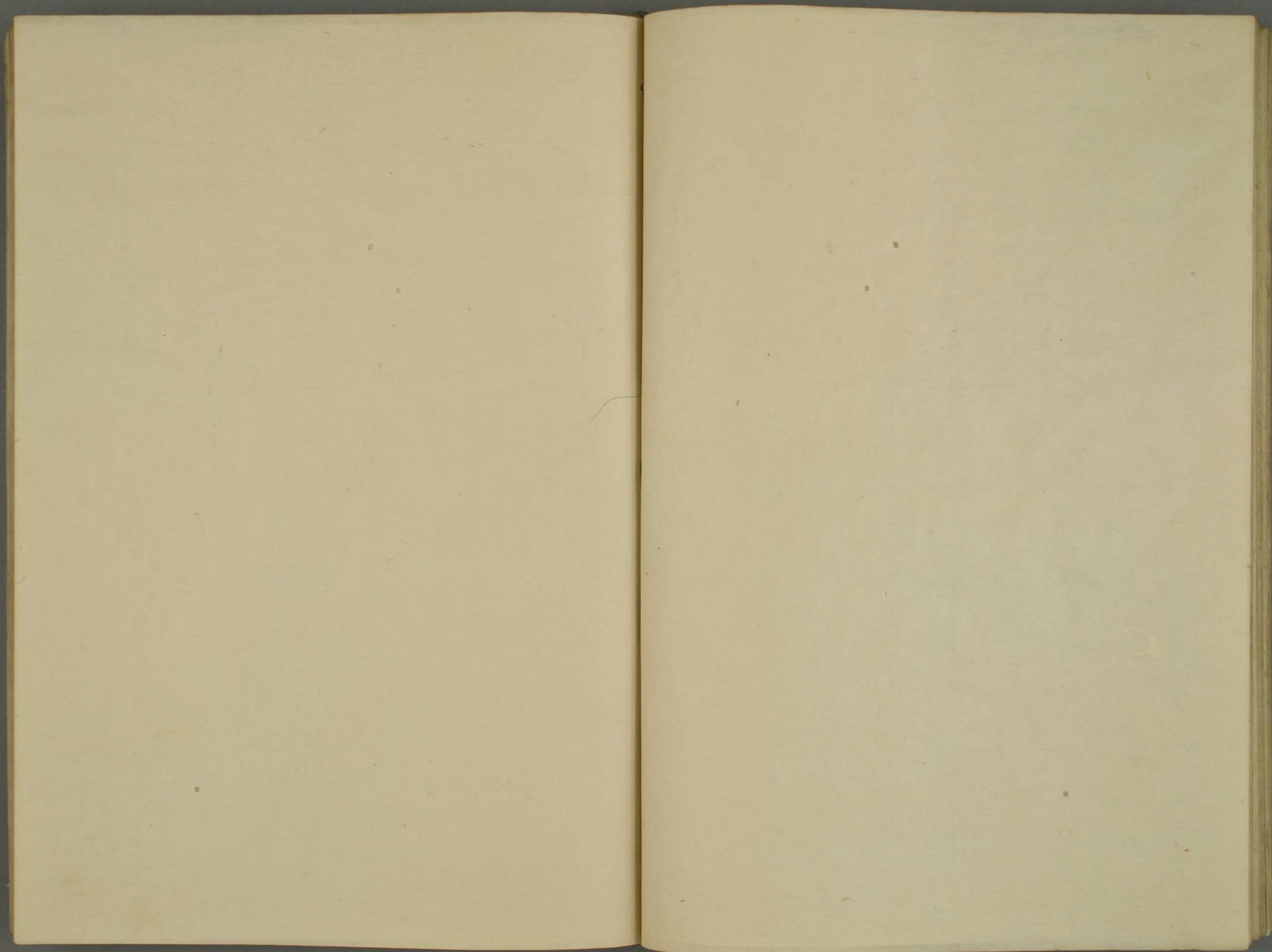
孤根之見歲之心霜露之
滋養深莫羨江河千仞質人
百斤者湯相壽 玄丹和



東湖詩鈔

序

東湖藤田先生忠謹寸學其名震耀海內如韻語
特其諸餘耳然愛及吾烏人之情也况於其詩矣
中江戶後仁鄉身先生交如兄弟而其淵藪香與
先生弟子行君世孫雅數年矣今得鐫以卷之
其情之所不可已也藻香知余與先生者當囑以序
及按訂因憶余嘗身任以討先生碑川郎舍海寫
與激福事不金維換上石殆至相罵而止後數日
余意未始得中將作一書以極論品事乃先



明治十一年六月廿二晚方より出掛ケ牛込山伏所ノ石
内君寓所ニ到ル此夕雨降来リテ帰ル能ハスレテ宿ス
石内君ト同宿スル者三人ナリ則安藤、坂本、小宮、
此三人モ山伏好クス則テ誥語ノ未ダノ
一在ノ人運年ヲトセシム、第一小宮君、思フ目的ゴ
ト皆自ら破壊シテ達セズ始終心配絶ハス別テ五年
同テ注意ス可シト、第二石内君、君、只今テ所法律リ
学バトモ之レ決シテ目的ヲ達セズ其レヨリ富法家ニ為
ラハ上ヨリ即ル人アリ、第一、第二、第三、安藤君、

五年間の抑制せしめ自由な格ス然しに之ヲ忍び
終る大宜し且つ本人耐忍カアレト大低耐へばしト
予四七生仕遂ニ思フヲ考ク上ヨリ破壊してモ
成切セス且つ遠國ニ行キ住ル亦小生学校ヲ卒業シ
ウ可キヤ否ヲ問ヒし非常ノ忍耐力アリト云フサ知
ラズ中ニ容易希ニ卒業覚付カナシ小生茲ニ能ク大ニ
困却し思ハス長女息ヲ為シタリ実ニ海膽ノ如ナリ
然し此非常ノ勉強ヲ以テスレトは遂ニザラフコトモ
有ラス附テ是ヨリ一層奮発カヲ起振シ大勉強

ヲ成ントス此人ノ言ヲ忘レサランカ為メ写シテ以テ貯
フ亦曰余トハ昔君トハ頗ルハ病ヲ癒ル可シト弟
共ニ汝為君ナリ此人ハ東洋カ或ハ今年中ニ父母
傷レカスヲ使フト

平家山門ノ大衆ヲ語ントテ願す其ヲ奉ル始メ無リシカ教す
ノ上ニ歌一首出来タリ

千載集中故郷ノ花詠人平忠度
千載集中故郷ノ花詠人平忠度
さび浪也志望のこゝろをあれしを考ふるがらの

経正

あて越 聖道の春も訪ふはるめ月の見よふ

雑歌

何れも知らぬあふせの藤垣をまきおし終は信ともふよ

重衡

湊つらき名を流し方ありともそそなふのあふせともふ

おのの道能歌

君はなれは流るるとも底のくくけと作はぬあふ

重衡

あふことも流るるも海ともよそを男ばのりぬあふ

おのの道能歌

旅の空赤おふ心のつぶせきよあはりのいよよ恋かきらん

重衡

放りも恋くもあは旅の空紅く終りまみあふらぬを

重衡

清かうぬ命あふれどもうらまははれぬきうひの白根ともふ

さき歌ゆ歌

君の心をなれや舟の月あまをどねあきき初あうけを

流の道送極留

そらまめでてねしついでに輝りまの道へ入るぞうまき

横笛返あ

そらとて何ううううん携り引きまもま心あうぬを

けあうぬ花も好まふをえくうあよよ此ま田の替ふらぬを

美人ノ形模詞

眉遠山ノ緑ヲ畫キ、肌ハ芙蓉ノ露ヲ凝ラス、

花唇常音、秋波人ヲシテ春心ヲ動カサレム

田村ノ歌様詞

疎林踏黒リ、琵琶波白シ、風ハ萬葉ノ箱ニ載ガズ

百草ノ露ニ嗜ル水、孤村ヲ抱テ、遠ク山一徑通
シテ斜ナリ

山峯山嶺ノ形様

秋

黄葉連山ヲ装へ、秋色乾坤ニ満ク、水織々トシテ
谷滑ニ尻瀧トシテ、松冷ナリ、石ニ羅ヲ帶テ赤
ク、山峯ニ雲ヲ吐テ白シ、牧童犢ヲ牽テ登リ、樵丈薪
ヲ負テ帰ル、

女子父母ノ許ニテ得スシテ身ヲ人ニ委ス可ラスト、虽氏
今ク危難即ニヨリテ免シ、西路命君ニヨリテ恙ナシ恩

ヲ受テ報ルコトナキ、今富穀ニ均トシ之ノ夜ノ奇遇、妾自
ラ諦ケルコト能ハス、只百年ノ命ヲ以テ郎ガ一夕ノ情ニカ
ヘン、遂ニ簪ヲ褰トシ、楫ヲ榜トシ、既ニ楚臺ノ夢ヲ結
ブ、月ハ房ヲ照ラシテ、婦妹モ妬ミ、風ハ艇ヲ走リテ石尤
モ恨ム、可あま身ヲ浅妻ノ浅る教マテ、世ニ浮キ君ノ浮
名ニタテテ、可憎あまノ病やま骸むらト、相年ニ人ヲ驚カス、汚情
ノ狂あま鷄いどりよ、三更ニ曉ヲ唱よテ、遂ニ郎ヲ衣ヲ被ギ對生
シテ泣キ、又共ニ恨シテ、愴あまヲ、恨ム所ニ別レ、安ク會ヒ難
シ、天明ケ人トシテ如何ニヤシ、卒あまウカニ送り行ン

山ニ立出レハ岸ノ桑屋々々ト敷クノ争ハ人ヲ戸アタリノ
カケ船モ纜ヲ解キ系竹ヲ鳴ラシテ已ガシム浮ビ出ヌ京
西條ノ岸ヲ為セシヨリ茲ニ百艘ノ艇ヲ連ネタルハ誰ニ敵
鳥ノ自ニモ取レシモ可シ高雄丸ノ屋形ノ前ニ夜火ノ先
リ紅葉ヲ散ラシ吉野屋カ行燈ノ影ニ蒲燒ノ烟
花ヲリモ鼓音シ幕ノ中ノ舞子ハ常声聞クニユカシク
船先ノ生解ハ千鳥足看ルニ危ナシ伽羅薑物ノカホ
リニトキナキテ吸物通ッ振袖ハ燭臺ノスキガケイ
ト若クカシコミドヨム大笑ハ如何ナル興ニカ有ルニ是所

ニ船致ノ争フハ何ノ理屬モ無キ事ナリ老人ノ甚老翁
ハ仙家ノカケヲ穿シ後者ノ聲色ハ其在モユコ
浮ブカト疑フ玉子々々田菜々々似西風ニ味ノ長ハ
ト常声西南ニカレマシク東北ニ漕キ廻ル瓦呂棹
ク船酒ヲ賣ル船菓子ニ有ラス鰻頭アリ鼓ニ
合ハヌ曲々翁アリテ所杖キマテ賑ハセメキレ若
時ノ状ハ水ノ流ト共ニ逝キテ今ハシモ乗合ヲ呼ぶ波
守カ坐ナル声ト夜網ニ出シ漁船ニ暮舟ノ葉ノ戩
クヲ聞ククニサテモ今テ若ノ感ニ堪ハスバハカナキコ

トヲフコハカト世エリ思と續ル中ニ短夜ノ月イツシ
カ沈ミテ三ツツニツ務サ一啼交ニセハ露ヲタレ
コナタニ打折レシ吾君傲ノ根柢ノ^{ホカ}反ニ見渡
カハ、曉ノ名コソイトビ又世ノ情此ナレ

おきやうみ、の詞

かぞりあり かぞいぢう
りあり母あや

おきやうみ おきやうみ
あや

あまのふ この外情
るたまふ

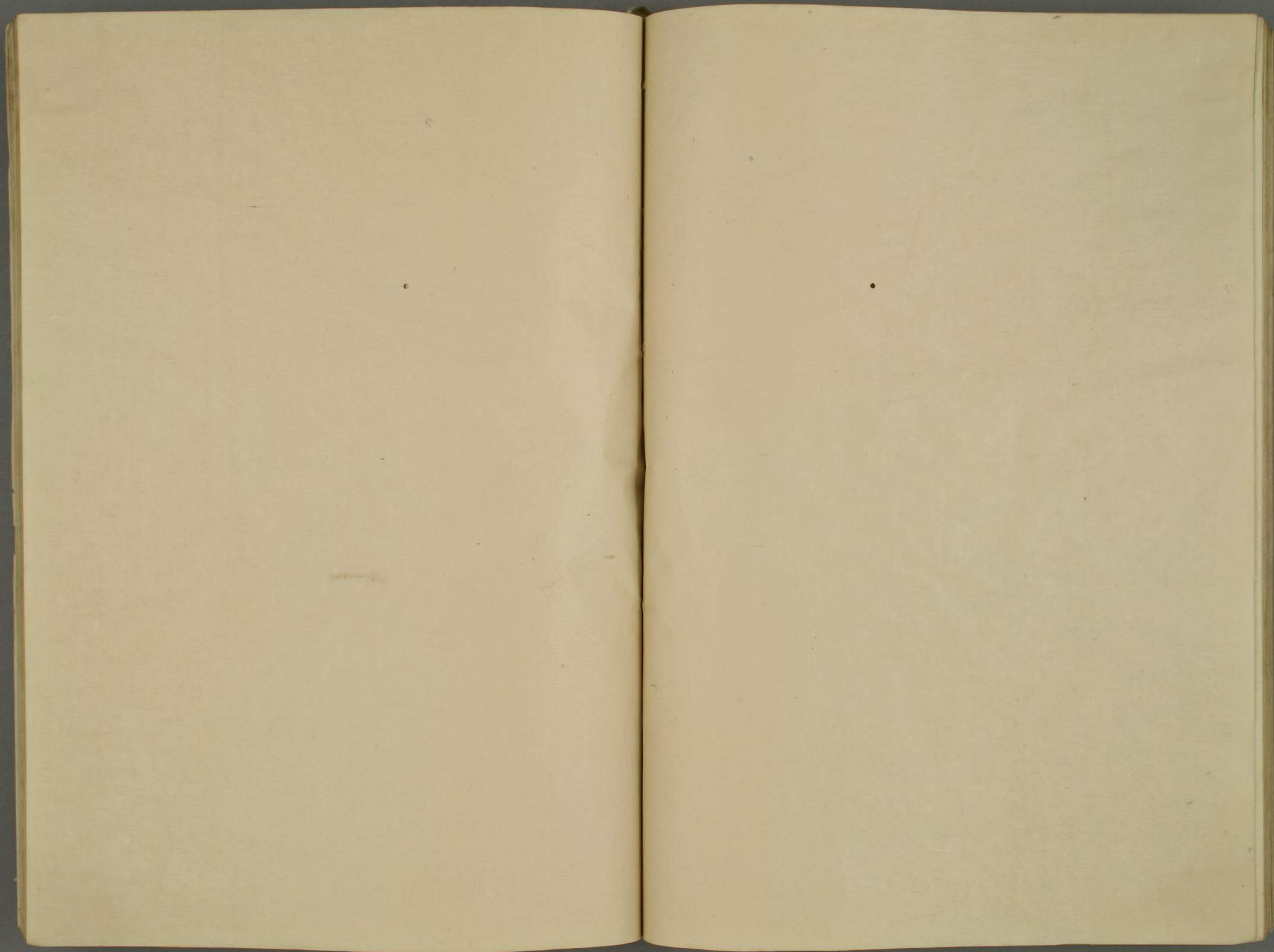
あまのふ あまのふ
あや

ひと日 せんりや

よふ 夜あや

ひとね せんねや

よまきり あまのふ



以下

36丁

白紙

潘楊

夫婦ノ事ナリ

仲春

彌生

卯月

金正

分鏡之契

調話

妻ノコナリ

妹婿ノ契ト同

クドクイナリ

音耗

郷音

笠

篋

種版位牌

本罌

綾隔

蘭名

寺ナリ

何必絲與竹。山水有清音。

筆補造化

墨池清興。已行千里道。未讀萬卷書。

百事不如拙。呵風罵雨。

倚雲瀑布近。水幽亭。作伴無如宦。

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。東曉池頭芳草草。夢危前梧葉已秋聲。

一人敵耳。劍須用足。記性

吞書不迂。我愛奸雄操蓋。

